

世界の人びとのための JICA 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	2015 年ネパール大地震 被災地の子どもたちと女性たちのための復興コミュニティづくりと学校教育支援事業
(2) 実施団体名	NGO ネパール『虹の家』
(3) 実施期間	2019 年 8 月 13 日～2020 年 1 月 31 日
(4) 実施国	ネパール連邦民主共和国
(5) 活動地域	カトマンズ郡
(6) 活動概要	
①活動の背景：	
<p>「新サヌタリ村プロジェクト」</p> <p>2015 年ネパール大地震に近いカトマンズ郡ゴカルナ地域のサヌタリ村は 41 軒中 40 軒が全壊し、7 人が亡くなった。『虹の家』は「Build Back Better」（震災前よりも より暮らしやすいコミュニティ）になれることを復興の目標とし、親を亡くした子どもたち 10 人への教育奨学金支給や村の生活改善に役立つ支援事業を継続してきた。また、子どもたちが通うオクレニ小学校他、山間部の 3 つの学校も震災被害が大きく、教師や地域の人から学習環境整備や新たに給食開始の要望が大きかった。</p> <p>2018 年度の「世界の人々のための JICA 基金」を活用した、「教育奨学金」「サヌタリ村プロジェクト」では寺子屋方式で学ぶ「子ども土曜クラブ」が充実し、子どもたちの学力も向上してきた。女性たちが立ち上げたサッチャムクラブは自立した女性になるという目標を持ち、洋裁技術習得や地域コミュニティへのボランティア活動参加など新しい取り組みを行ってきた。「女性自立支援プロジェクト」にほとんどの女性が参加し、スクールシャツ制作技術も上達し支援が必要な家庭の子どもたちへ配布したり、サヌタリ村で採れた野菜を給食用に調理して提供したりするなどの地域貢献活動も進めている。</p> <p>2019 年 1 月に村から提出された「農業プラン」～有機栽培野菜づくりと学校給食サポートプログラム～には、「雇用機会創出」「平等な女性参加」「有機栽培穀物・野菜の生産」「資源の適切利用による効率のよい生産方法の奨励」の目的が挙げられていた。</p> <p>2020 年 1 月の村の報告書によると、それぞれの目的が少しずつ達成されていることが分かる。現在、農業従事者数は男性 5 名と女性は 12 名でグループ生産活動を進めている。9 月から 12 月の期間に作付・生産（収穫）・販売までが行えた（数値資料添付）。販売については、路上販売に加え小売店からの注文が入るなど、野菜の品質も評価されている。そのことが、生産者としての喜びや意欲へつながっている。来春の作付けへの期待が広がるとともに、生産量拡大や日本の野菜提供など要望事項が届いている。サヌタリ村の立地は裏にシバプリ国立公園があり豊かな水と緑に囲まれた里山である。また、近隣にカトマンズ中心部への水源供給のための浄水場が JICA 事業で完成している。安心安全な野菜を供給ができる近郊農業最適地である。現在は、耕作からたい肥作り、すべてが旧式農法である。11 月、カブレパランチョーク郡での農業研修を経て、今後、サヌタリ村も農地拡大や機械化など、とりわけ、有機栽培へのアプローチが新しい目標となっている。</p>	

『虹の家』メンバーは、5月、8月、11月の3回の現地訪問により、「有機栽培農業」「子ども土曜クラブ」「女性自立支援」、そして「地域貢献活動」などの取り組みや進捗状況を確認している。とりわけ、サヌタリ村の女性たちの役割や働き方や子どもたちの学力向上が大きく変化していることが見える。このことは、以前は村になかった新しい“Better”である。サヌタリ村の人の声は、各プロジェクトリーダーよりレポート提出や意見交流会報告からも課題解決が速やかに行える体制もできつつあることが分かる。

日本では目に見える復興には10年以上かかり、目に見えない心のケアはずっと続くといわれる。『虹の家』のサヌタリ村復興コミュニティづくり計画において、生活基盤づくり支援は7年、子どもたちの教育支援と心のケアは永年と設定している。2020年からはコミュニティ防災にも取り組み村の人が震災体験を取り入れ、防災力を理解しどのように防災を進めていくかが最終課題である。その中で、親を亡くした子どもたちの教育支援や心のケア、寡婦となった女性への理解と就業支援などを村のコミュニティ内の問題として共有し、ともに改善する方向性と意識を育てたい。

「スクールプロジェクト」

支援対象校のオクレニ小中高校の幼児クラス31名、新規対象校スダリジャル小70名、バグドゥワル小50名への教育支援として「健康プログラム」の給食実施と「幼児教育プログラム」の絵本や学習材の提供を進めてきた。給食が毎日実施されたことで通学する子どもたちが増え、村人の学校教育への期待感も高まっているとの報告があった。しかし、子どもたちの健康面からみると学校内の衛生環境、とりわけ「清潔な水」の確保が難しいことと、ランチスペースの確保などの問題、また、給食の調理をする人の確保と栄養と衛生面の課題も残った。また、「給食から始まる～清潔で健康的な学校生活」の目標を達成するには、子どもたちに「健康や食」の基礎知識を伝える授業の必要性を感じている。

幼児クラスの教室環境整備と絵本や学習材の提供は順調に進んでいる。それとともに、引き続き、「給食」と「絵本」を柱に、子どもたちの心と体の健康づくりに向けての多様な学びを提供していく。

「女性自立支援プロジェクト」

被災地サヌタリ村とゴカルナ村、ジョルパティの貧困地域の女性を対象に仕事と収入を得るためのソーイング技術トレーニング研修を始めて2年半が経った。2018年度のJICA基金活用事業でジョルパティトレーニング場のミシン他の設備が充実し、現在、20名余の女性たちがトレーニングに励んでいる。とりわけ、スクールシャツの制作技術の向上や民族ドレス制作、日本向けのニットソックスやフェルトブローチなど、女性たちのアイデアを生かしたネパールらしさのあふれる商品も出来上がっている。また、自主運営に向けての組織運営、事業プラン作成、マーケティング調査活動などの実務研修も始まっている。女性たちが主体となりソーシャルビジネスとして起業し、収入を得ることで多様な働き方や社会貢献活動を女性が担えるなど、ネパール女性の新しい生き方にもトライすることを目指している。

②活動の目標：

- ・「新サヌタリ村プロジェクト」では「生活改善」「子どもの教育」「女性の自立」を継続しながら新しく「農業～有機作物栽培と学校給食サポートプログラム」を始め、生活基盤づくりを進める。
- ・「スクールプロジェクト」は学習環境づくりに加え「健康プログラム」を取り入れる。「清潔で健康的な学校生活」を目標に「健康の基礎知識」「給食実施」などの学びや体験を通して健康への関心を高める。
- ・女性自立支援事業では技術向上の講習、組織運営や収入向上のための実務的なスキルを身に付ける研修を実施する。

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容：復興コミュニティづくり 「新サヌタリ村プロジェクト」

【実施内容①】 「有機栽培農業」 ～ 生産から販売へ ～

このプロジェクトは JICA 基金を全面的に活用して行われた。8 月末より始まった農地耕作、ビニルハウス設営、苗づくり、野菜の作付、その後は、「ニンジン、マメ、コリアンダー、キャベツ、レタス、そして、カリフラワー」などの収穫が行われ、販売により少額でも収入が得られるまでになった。

11 月末、サヌタリ村の農業グループはカブレパランチョークで活動する日本の NGO「ラブグリーン ネパール」の農業研修を受け有機栽培や肥料づくりなど安心安全な野菜づくりのために必要な多くのことを学んだ。そこでは、現地の農地の広さに驚くと共に新しい目標ができたことも大きな収穫であった。終了後のミーティングでは「有機栽培農法の習得」「耕地を広げ生産量を増やす」「野菜販売の場を確保する」、「労働時間と機械化」についての意見交流が行われ、今できること、生産と販売にトライすることを確認した。地域連携事業「学校給食サポートプログラム」としてオクレニ小中高校へ週に 1 回収穫した野菜を提供している。女性たちが料理教室を開き野菜を美味しくいただくレシピ研究も行っている。

【実施内容②】 「女性自立支援」 ～ 働き方とライフスタイルの変化 ～

サヌタリ村の女性たちの暮らしぶりが大きく変化している。農業プランが始まり男性との協働作業やミーティングでの意見交換などコミュニティ内における存在が増している。また、バスに乗って通勤し、ジョルパティでトレーニング研修を行い、フェルト小物や民族衣装制作など少しずつ収益を上げている。週一回、料理教室を開き学校給食のレシピづくりにも取り組んでいる。

『虹の家』は地震で寡婦となった 3 人へのサポート（オクレニ小中高校 図書室整備勤務毎週金曜日 給与 1 か月 2000Rs、ジョルパティトレーニング場交通費 1000Rs、子どもたちの教育奨学金一人当たり年額 10000Rs）は継続。また、現金収入の少ない家庭の女性 2 名は教育サポーターとして雇用している。

【実施内容③】 「子ども土曜クラブ」 ～ 絵本が届ける 家庭読書 ～

JICA 基金活用事業から学習用机 4 台が提供され、落ち着いた環境で学習が進められるようになった。担当教員（キラン先生）に加え 2 名の教育サポーターが加わり、より個別的な学習支援が可能になった。今は、英語学習の指導に力を入れ、日本から持参した英語の絵本やネパールで購入した学習ワークも届けた。日本の支援者や友達へは英語で手紙が書けるまでになっている。

「クルクル絵本」は子どもたちに人気があり、読書量が増え家庭での親子読書も進んでいる。今後も新しい本を提供して、子どもたちの学びを応援したい。

： 被災校への支援活動「スクールプロジェクト」

【実施内容④】 「図書室づくり 絵本のチカラ」オクレニ小中高校

図書室の床マットが敷き詰められ読書机 8 台が設置され手作りの書架には英語、ネパール語、そして、日本の絵本合せて 157 冊が並ぶ。いずれも 2 年間にわたる JICA 基金を活用し揃えたものである。日差しも入り、明るい環境の図書室は子どもたちのお気に入りの学びの場となっている。机が入ったことにより読書活動以外の多様なアクティビティが可能になっている。また、中高生向きの書籍や学習教材、英語教材、地球規模の環境問題など関心を持つ話題に関する書籍を入庫予定である。

図書室環境整備のため、サヌタリ村の 3 名の女性が毎週金曜日に室内清掃や本の整理を行っている。

図書室は今後、教員による絵本の読み聞かせの場や中高生用の学習資料室としても活用する方向で進めている。

【実施内容⑤】 給食実施 「健康プログラム」

オクレニ小は教室の一部を業者に委託した形で給食を実施。スナドリジャル小学校は空き教室を利用し、給食の調理や配膳まで教師が輪番に行く。バグドゥワル小学校では職員室にプロパンガスとレンジが置かれ教師が授業の合間に調理している。また、子どもたちが給食をいただく場所もそれぞれ違う。一番の問題はバグドゥワル小学校では地べたにお皿を置いて食べている。といったように、衛生面からの問題を解決することが急がれる。

もう一つの課題は給食メニューが家庭料理の延長線上であることだ。専門の調理師や栄養士がいない分、教師にも「食と栄養」に関する基礎知識を持ってもらうことが大事と考える。給食が始まったことをきっかけに食育の観点からの学習材を提供し、時間をかけて改善できることから進めていく予定である。

【実施内容⑥】 幼児教室環境整備

6月訪問時、幼児クラスの教師には『虹の家』が支援する幼児教室環境整備の説明を行った。

8月の訪問時には、その教師に発育測定の協力と記録、給食前の手洗い指導への協力をお願いした。

12月訪問時には、冬に備えてジョイント床マットを大量に敷き、日本の高校生手づくりの積み木や巧緻性を養う糸とおしのおもちゃ、お店屋さんごっこ遊びのフェルトの野菜や食べ物、そして、レゴを教材かごに入れて教室に入った。そのとたんから、子どもたちの遊びとコミュニケーションパワーが全開。笑顔と話かけなど、今までの訪問時には見られない光景であった。教師は再び発育測定をお願いすると前回に比べ手際よく子どもの名前を呼び記録していった。絵本の読み聞かせは福谷が英語を読み教師がネパール語で読むという共同作業もできた。

日本や世界で就学期前の幼稚園教育や幼児期体験が重視されている。ネパールの子どもたちに合った学習材の提供、教師との意見交換を大事にすることで学校が子どもたちの笑顔あふれる居場所になれることを実感した。

: 「女性自立支援プロジェクト」 ジョルパティトレーニング場

【実施内容⑦】 洋裁技術研修と 自主運営に向けての実務研修

トレーニング場のあるジョルパティには、サヌタリ村から12名、ゴカルナ村から5名、そしてジョルパティからは6名が参加している。研修期間の2年間でミシン技術や新しい商品づくりに女性たちのアイデアが活かされるようになってきている。

今年度は、自主的な組織運営や商品化へのスキルアップ、市場でのマーケティングなどの実務研修を中心に行った。そして、ブランド名「SAHAYOGI MAHIRA SAMUHA」を立ち上げ組織運営の核となる人材も決まり、ネパールの良さを生かした商品づくりや民族衣装づくりを行っている。JICA基金活用事業のスクールシャツ制作も2年目となり、その縫製技術も進歩している。オクレニ小中高校の要支援生徒50名とバグドゥワル小学校50名へ支給予定である。今後は、スクールシャツの商品化も目指す。この取り組みは地域貢献活動として地域の保護者から喜ばれている。

【実施内容⑧】 『虹の家』とのコラボ商品

『虹の家』の国内活動の目的はネパールの良さや被災地の女性が新しい生き方を求めている様子を伝えることである。イベントのテーマは「つながって ネパール」としている。報告会や写真展示も行うが一番の人気は女性が制作したネパールの小物である。ニットソックスも購入者からは「最初の製品から見ると上手になったね」の言葉をいただくまでになった。また、ネパールの伝統織物ダカ織と『虹の家』メンバーのアイデアがコラボした新製品「Nepal in Bag」は好評である。ネパールの女性たちによるソーシャルビジネス起業に向け、『虹の家』メンバーも商品販売事業にも力を入れている。

(2) 実施成果と課題

① 教育支援

オクレニ小中高校の校長は「地震で親を亡くした子どもたちも大きくなっています。今は、その妹や弟が入学してきています。働き手を失い、子どもたちを学校へ通わせることが出来ない家庭にとっては学校にかかる経費を支払うことが難しいのです」と話す。2019年度の年度 JICA 基金活用事業として奨学金を受け取った生徒の多くは幼児クラス在籍である。8月の母親教室には30人の参加者があり給食実施も含め地域の中で幼児期から学校へ行って学ぶことの大切さを伝えた。

② 復興コミュニティづくり 「新サヌタリ村プロジェクト」

サヌタリ村復興支援プロジェクトを継続する中で『虹の家』の立ち位置は支援者から伴走者へと変化してきている。サヌタリ村で始まった「有機栽培農業プロジェクト」により、村に活気が出てきた。ビニルハウス農業を取り入れたことで作付け野菜の種類と生産量が増加、販売へとつながり少額ではあるが対価が得られた。また、「学校給食サポートプログラム」として女性たちが調理した野菜メニューを提供したことも学校長からも感謝の意を伝えられた。すでに、次の土壌づくり、新作物作付け準備など新たな「2020年農業プラン」は動き出している。

親を亡くした子どもたちへの「心のケア」「コミュニティ防災」など、震災体験を生かす取り組みと子どもたちの健康や栄養改善への取り組みは今後委ねられるなど多くの課題も残っている。

③ 被災校への支援活動「スクールプロジェクト」

「スクールプロジェクト」の給食や幼児教育への支援を進めていくうちに、ネパールでの教育事情を含め課題解決へのアプローチが難しいと感じることがあった。

JICA 基金活用事業としての教育奨学金の支給により登校できる生徒の増加や図書室整備などは成果が上がっている。しかし、目標として挙げた「健康プログラム」は給食を実施するだけで精いっぱいだったため、2020度は健康診断や発育測定などを実施し、子どもたちの健康状態を数値化し改善課題を把握することが必要である。そのうえで、「健康や食に関する学習」へつなぎ子どもたちが学ぶ「食育」へアプローチするほうが効果的だったと反省している。

良かった取り組みとしてはサヌタリ村が学校給食へ収穫した野菜の提供や調理した野菜料理を届けたことだ。地産地消の考え方や安全な野菜を作る「有機栽培農法」が地域に広がるきっかけにもなる。

今後は、保護者の給食参観、健康診断の実施など具体的で目に見える取り組みを積み上げることで学校、家庭、地域が連携して子どもたちの健康を守る仕組みを作っていきたい。

④ 「女性自立支援プロジェクト」 ジョルパティトレーニング場

今まで、JICA 基金活用事業を通じたミシン他の設備の導入や研修事業、スクールシャツの布地購入など、ほとんどが『虹の家』からの支援と協議に頼り運営されてきている。これからは女性たちが主体となって起業するという意識と目標、実務経験の積み重ねが求められる。

2020年度は、事業アクションプランの立案やマーケティングなど本格的な実務研修が始まる。ネパールでの本格的な実務を円滑に行うためには、『虹の家』メンバーが JICA のサポートプログラム研修に引き続き参加し、コンサルティングサポート実務経験を積み重ねなければならない。そして、ネパールの女性が十分に力を発揮できるよう、今以上に人材を育てることに努めたい。

成果と課題	
プロジェクト名	成果（○）と課題（△）
①「教育支援」	<p>○オクレニ小中高校親を亡くした通学困難な子どもたちへ JICA 基金活用事業より 4000s × 25 名に支給</p> <p>○受給対象として幼児クラスの子どもの通学できる生徒が増えた。</p> <p>△母親学級では、次年度以降の継続支給の希望が出された。</p>
②「新サヌタリ村プロジェクト」 有機栽培農業 女性自立支援 子ども土曜クラブ	<p>○ビニルハウス設置、野菜作付から生産販売まで順調に行った。</p> <p>○野菜は、10月より各週1回 学校給食への食材として提供された。</p> <p>○11月 農業研修 カブレパランチョーク郡 ラブグリーン ネパール 有機栽培講義 生産者ファーム見学。</p> <p>○12月 農業用水確保のためのタンク設置 1月 たい肥作りが済んだ</p> <p>○ファーマーズチーム組織も円滑に機能している。</p> <p>○サヌタリ村コミュニティの活性化につながっている。</p> <p>○女性の働き方が多様になり、収入も少し得られるようになっている。</p> <p>○土曜日 7:30～と 9:00～2回 参加者 30名 中学生コース新設予定</p> <p>○教育支援員 2名 雇用 学習補助に入る。(心のケア)</p> <p>○JICA 基金活用事業より学習机 4台落ち着いて学習できる環境が整った。</p> <p>○JICA 基金活用事業より英語の絵本 8冊 (英語学習に力を入れている)</p> <p>○「クルクル絵本」の継続により、子どもたちの学びの力が向上している。</p>
③「スクールプロジェクト」 図書室づくり 幼児教室環境整備 健康プログラム 給食実施	<p>○図書室環境整備充実してきた。(ジャンル別の本の並べかたを依頼)</p> <p>・中高生用の書籍購入については、女性教師に生徒に必要な学習教材の選択を依頼している。</p> <p>○幼児教室整備 床マット、学習材、レゴなどの遊び道具を提供した。</p> <p>△幼児教育についての教育方針や指導技術が十分あるとは言えない。</p> <p>△幼児教室の環境が十分に整っていくことで学び方の質が高まる。</p> <p>△オクレニ小 幼児クラス 31名に実施しているが、小学校 1・2年生 50名への実施希望があるが、予算が無い。</p> <p>○スندانリジャル小 70名 バグドウワル小 50名 全校生対象に実施中。</p> <p>△給食メニューの単一化(栄養に偏り:家庭料理と同じ食材) 栄養改善。</p> <p>△調理室、ランチルームが無いなど衛生管理面が不十分。</p> <p>△「保健衛生」の生活習慣化が必要 病気の予防についての学習。</p> <p>△給食継続のための給食経費の負担を地域行政、保護者と分担する方向へ。</p>
④「女性自立支援プロジェクト」 ジョルパティ トレーニング場	<p>○商品化に向けてのアプローチ(マーケティング他)が始まっている。</p> <p>○スクールシャツ制作技術の向上し収益事業へ(品質の向上)。</p> <p>○事業運営に関わる決定事項</p> <p>団体名 SAHAYOGI MAHIRA SAMUHA (助け合う女性グループ)</p> <p>目的 収入を得て 自立した 事業にする</p> <p>目標 2022年8月 ソーシャルビジネス として起業予定</p> <p>事業計画 プランニング 組織の確立 役割分担</p> <p>△課題 カウンターパート Sewa society の役割と協力体制づくり</p> <p>△課題 ネパールでの販路の確保。</p>

(3) 得られた教訓など：

- * ネパールにはネパール人自慢のシンズリ道路がある。「日本の JICA が日本の技術を使ってネパール人が働いて完成した道路で心地良いし、音もしない立派な道路だ」と、話す。
- * 女性自立支援プロジェクトでは、いよいよ本格的な商品化が始まる。シンズリ道路同様にネパールの良さが感じられる質の高いものを制作していきたい。
- * サヌタリ村の「農業プラン」には、もっともっと時間と資金が必要となる。しかし、“食は命を守る。農業は国を守る” 地産地消の考え方と自然保護の観点からも地域の人の暮らしを守る持続可能な農業と村の収入と生計という課題に取り組む必要がある。
- * サヌタリ村農業に必要な支援を吟味しながら、日本からの農業指導者からの助言を取り入れ、村民の「食と健康」の考え方や意識を育てながら、村で採れた野菜が子どもたちをどんどん健康に大きく育てる実績が上げられる日を待ちたい。
- * 学校給食は「子どもたちの体を育て、絵本は心を育てる」。給食から始まる「健康プログラム」は給食レシピづくりや栄養改善も含め、専門家の指導を得ながら是非進めていきたい。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

- * 復興支援事業には時間がかかる。これからは「支援者」から「伴走者」になり、ネパール人が持っているパワーを活かし、彼らが持っていない資金面と技術面を『虹の家』が応援する形となる。
- * 「農業」は生活基盤である。子どもたちの未来のためには「教育と農業」が必要であるというサヌタリ村の人々の希望を叶えるためにも農業技術指導者養成と中長期計画策定が急務である。
- * 今まで、大勢の日本の団体が農業指導に尽力されている。サヌタリ村の立地、土壌検査、品質向上、販売のノウハウなど、今後、何年もかかるプロジェクトに発展するのかどうか、見極めていきたい。「農業」こそが復興コミュニティづくりの軸となると考える。
- * 「女性自立支援プロジェクト」は『虹の家』のネパール支援事業では、唯一収入を得ることができ、ネパール女性の力になれることである。『虹の家』メンバーも商品開発、販路拡大に鋭意努力する。
- * 「女性自立支援プロジェクト」の事業化に向けては引き続き3年間の JICA サポートプログラムを受講予定。中小企業診断士の講師をはじめ JICA 関西の方からもご指導いただきながらコンサルティングサポートが出来るよう努力したい。
- * 現地マーケティングや販路の確保など、たくさんの実務経験を女性たちと一緒にやる。その内容を女性たち自身が理解し、身に付けることができるよう丁寧に進めていく。
- * 『虹の家』のスタートは「子どもたちを笑顔にしたい」である。その意味からも「教育奨学金」「スクールプロジェクト」は最重要事業と共通理解している。「学校には給食も絵本もある。だから、子どもたちは喜んで登校する」と考える。今後の給食の継続に向け、地域や保護者と一緒に取り組むシステムを構築する。学校が子どもたちの笑顔であふれる場になれる支援を続けていきたい。
- * 10月にはサヌタリ村から農業研修として日本へ招聘する予定である。日本の支援者との交流も含め、報告会で復興コミュニティづくりの進捗状況の報告を行う。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 「新サヌタリ村プロジェクト」

① 農業プラン <2020年2月1日報告書より 英文を訳しています>

私たちがこの農場を建設するため、NGO虹の家と International Sewa Society がサポートしてくださり、たいへん感謝しています。

初めのうち、この農園に Rs 5000/ 5000ルピーを投資して、カリフラワー、banda、それぞれ100個、コリアンダーが1kg、青物野菜、大根がとれました。2~3週後で青物野菜は食用可能になり、2~3か月でカリフラワー、off(育ち)、コリアンダー、も食用可能になります。このようにして野菜は食べることができ、週に1回、okharani(オクレニ)スクールに運ばれます。

カリフラワー、Banda を収穫した後、再度、たい肥の Mal を入れ、耕しました。

現在、トマト、カボチャ、キュウリ等の種があるので、農園に持っていき、5/5 inchの種をまく予定です。この農園で、できることすべてをするつもりです。私たちは遅れをとっていると感じています。なぜなら、開発途上国において、必要なマンパワーや農業技術を持っていないからです。もし、農業技術があれば、もっと収穫を改善でき、経済状況も良くすることができると思っています。

日付	項目	収穫量	価格	総額	全総額
2019,10,14	ニンジン	10kg	Rs, 30	Rs, 270	Rs, 270/
2019,10,15	豆	2kg	Rs, 100	Rs, 200	Rs, 470/
2019,10,16	コリアンダー	5kg	Rs, 150	Rs, 1200	Rs, 1670/
2019,10,17	レタス	60個	Rs, 10	Rs, 600	Rs, 2270/
2019,12,19	コリアンダー	2kg	Rs, 100	Rs, 200	Rs, 2470/
2019,12,25	キャベツ	3kg	Rs, 50	Rs, 150	Rs, 2620/
2019,12,25	キャベツ	5kg	Rs, 50	Rs, 250	Rs, 2870/
2019,12,26	キャベツ	10kg	Rs, 50	Rs, 500	Rs, 3370/
2019,12,26	キャベツ	5kg	Rs, 50	Rs, 250	Rs, 3620/
2019,12,26	豆	1/2kg	Rs, 150	Rs, 75	Rs, 3695/
2019,12,27	キャベツ	3kg	Rs, 50	Rs, 150	Rs, 3845/
2019,12,28	キャベツ	4kg	Rs, 50	Rs, 200	Rs, 4045/
2019,12,29	カリフラワー	8kg	Rs,80	Rs,640	Rs,4685/
2020,1,3	カリフラワー	1.5kg	Rs,80	Rs,130	Rs,4815/
2020,1,4	カリフラワー	4kg	Rs,80	Rs,320	Rs,5135/
2020,1,6	カリフラワー	7kg	Rs,80	Rs,560	Rs,5695/
2020,1,10	カリフラワー	10kg	Rs,50	Rs,500	Rs,6195/
2020,1,10	キャベツ	4kg	Rs,80	Rs,320	Rs,6515/



10月 収穫前の農園



11月カブレバランチョーク農業研修



2020年1月種を植える 準備中

2020,1,12	カリフラワー	5kg	Rs,80	Rs,400	Rs,6915/
2020,1,14	カリフラワー	5kg	Rs,80	Rs,400	Rs,7315/
2020,1,18	カリフラワー	2kg	Rs,80	Rs,160	Rs,7475/
2020,1,21	カリフラワー	9kg	Rs,80	Rs,720	Rs,8195/



2020年1月たい肥を畑へ

② サヌタリ村の女性自立支援

寡婦となり一家の働き手となったマイリさん、マイリさん、リヌさん、ムナさん3人はそれぞれ3人の子どもを育てるシングルマザーです。マイリさんの報告です。

マイリさん：まだ、家は再建できていません。サニーとサンディッシュは中学生、私の父と妹の5人暮らしです。『虹の家』から教育奨学金をいただいたり、オクレニ小学校の図書室で働いたり、ジョルパティのソーイングで少し給料をいただいています。それに、農業が始まったので、これからは良くなると思います。ひと月に必要な生活費は15000Rs（ルピー）です。今は、妹の給料と併せて何とかやっています。将来は、ソーイングが仕事になればいいなと思います。



報告用 フィリップ

実収入 月額

オクレニ図書室	2000Rs
教育奨学金一人 850Rs × 2 =	1700Rs
ジョルパティ	1000Rs (臨時収入あり)
工場へ働きに行く	2300Rs
不足分	8000Rs

マイリさんは、不足分 8000Rs をジョルパティの仕事から収入が得られることを望んでいます。

③ 子ども土曜クラブ



JICA 基金を活用して学習机を6台納入しました



ユナさんは「クルクル絵本」が大好きです。もうすぐ、100冊目。

子どもの心のケアの取り組み

サヌタリ村 土曜クラブの子どもたちからのメッセージ



スナドリジャルは「きれいな水」という名前です。自然がいっぱいです。 サヌタリ村にはきれいな花が咲きます。
震災を体験した子どもたちの絵も少しずつ変化があります。これからも絵を通して、子どもたちと心の会話を続けていきます。

P8

「女性自立支援プロジェクト」

SAHAYOGI MAHIRA SAMUHA の設立 ジョルパティトレーニング場報告
(助け合う 女性 グループ)

研修とミーティング



2019年8月 合同ミーティング



2019年12月スクールシャツ制作



2020年1月 月例ミーティング

商品化に向けて



ニット商品 の靴下 手袋



ネパール布(ダッカ織)を使ったポーチ



フェルトブローチ

幼児教育 オクレニ小



体重測定をする先生 毎月お願いします！



日本の高校生の手づくりの積み木で



レゴも自由自在に使って遊びます

交流授業 スンダリジャル小



「はらべこあおむし」のお話は大人気

絵本



お腹を空かせているあおむし君になり切って



絵本から絵をはなさずに

ネパールの子どもたちが笑顔になれるよう、それが『虹の家』の活動の原点です。